

東日本大震災が残した防災計画研究上の 課題について

多々納 裕一¹

¹ 京都大学防災研究所

E-mail: tatano@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp

東日本大震災は、超広域災害であり、地震・津波・原子力災害という複合災害をもたらし、かつ、サプライチェーンの損傷等を通じて連鎖的な被害を波及させた。防災計画の研究に携わる者として、災害前から指摘されてはいたが実行ができていなかった問題、従来の考え方やアプローチとは異なる新しい枠組みが必要とされるような問題は何かに関して、私なりの意見を述べたいと考えている。前者の問題として、超過外力を考慮した総合防災対策、災害文化の醸成や防災教育などのソフト対策の浸透、災害復興の方法論など、を上げることができよう。後者の問題としては、大規模な災害の発生可能性を考慮したまちづくりの方法論、科学的不確実性を考慮した計画の方法論等を上げることができよう。この発表では、これらの問題に共通するいくつかの側面に焦点を当て、議論したいと考える。

キーワード：超過外力，費用便益分析，防災教育，科学的不確実性